

## 北東ロシア金銀鉱床見聞記

北東ロシア、マガデン北方のコリマ河流域では1920年代の後半に砂金が発見され、“20世紀の奴隸”によって、2,400トン以上の砂金が回収された（本文31-48頁参照）。現在では砂金資源は枯渇に近く、開発は初生鉱床に移行し、ロシア最大の金・銀鉱床が稼働中である。ここではこの極寒の地で見聞したものを示そう。

（北海道大学理学部 石原舜三）



1. コリマ河の上流部、小規模砂金鉱床の一例、Nadezda 鉱山。1994年9月13日撮影。落葉松が美しかったが、その翌日には雪が降った。



2. ブルドーザ2台を使って高品位部を集め、粗礫を取り除いて比重選鉱にかける。



3. 採集された砂金。



4. 巡検に使用した何処でも走行できる4駆バス。



5.北東ロシア，モンゴル-オホーツク帯にあるロシア最大の銀鉱床であるデューカート鉱床産の高品位鉱，黒色部に銀硫化物を主体とする含銀鉱物・金鉱物を含む，場所と鉱化ステージによっては錫鉱物を伴う点が本鉱床の特徴である（左右12.5 cm）。



6.Svetloye 鉱床の含金石英鉱脈会合部（写真幅2 m）。



7.Lunny 第9 鉱体の含金石英鉱脈，母岩の角礫化・鉱脈の膨縮が激しい（写真幅2 m）。



8.白亜紀火山岩類の露頭，左下に層理面が見える。